

草の根の運動と国会でのたたかいを結び

後期高齢者医療制度を廃止に追いこもう!

日本共産党、民主党、社民党、国民新党の野党4党は5月23日、後期高齢者医療制度を廃止する法案を参議院に提出しました。「現代版うばすて山」と言われるほどのあまりにもひどい制度に、全国で国民の怒りが爆発しています。政府・与党は小先手の手直しでなんとか乗り切ろうとしています。廃止以外に解決の道はありません。

千代田、新宿のみなさんと国会へ

5月28日、新宿のみなさんと一しょに国会要請行動に参加しました。「じつとしていられない」と集めた署名をもって駆けつけた人、「こういう場には初めて参加しました。私たち後期高齢者だけではなく、次の世代の問題でもあります」とマイクを握って訴える女性など、熱気あふれました。

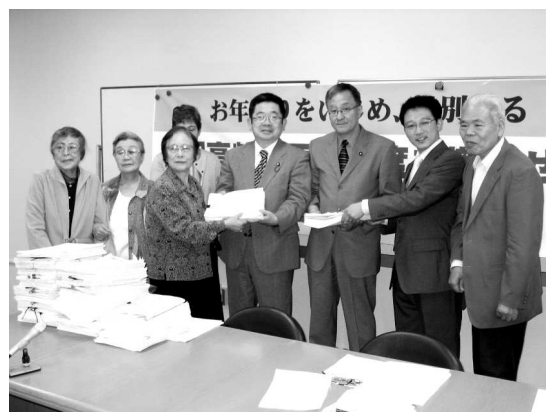
国会前に300人が集まってシュプレヒコール。東京社保協の集会では、新宿のみなさんが集めた2195

人分の署名を笠井亮衆院議員などに手渡しました。その後、手分けして各党議員へ要請。ある自民党議員の部屋では、秘書が「要望書に財源をどうするかを書くべきだ」。これには、参加者のみなさんは大憤激し、反論しました。

これに先がけて15日には、千代田のみなさんといっしょに国会要請し、千代田・港で集めた署名を提出しました。



5月28日、衆議院議員面会所で開かれた東京社保協の集会で、1区での取り組みを報告する富田なおき



5月15日、千代田のみなさんと一緒に、千代田・港の署名を小池晃参院議員、笠井亮衆院議員に署名を手渡す



ゆきすぎた大企業減税と軍事費のムダにメスを入れれば、財源は十分に確保できます

政府・自民党は、後期高齢者医療制度を続ける「理由」として「財源がない」と言い、「消費税引き上げ」を盛んに宣伝しています。「福祉」を口実に導入された消費税は、これまでの総額が188兆円。そのうちの159兆円が大企業などの減税の財源に使われました。これ以上の消費税増税は許されません。

日本共産党は、医療の財源として、この10年間で7兆円の大企業・大資産家へのゆきすぎた減税を元に戻すこと、年間5兆円もの軍事費や道路などのムダづかいを大幅に削減することを提案しています。これらにメスを入れれば、消費税を増税したり国民に負担を押しつけなくても、財源は十分に確保できます。

5月7日、新宿区医師会長の中村靖彦さんを訪問し、懇談しました。後期高齢者医療制度について、中村さんから多数の問題点が指摘されました。「担当医」制度について、複数の



新宿区医師会長の中村靖彦さんと懇談する大山とも子都議、あべ早苗区議、富田なおき

新宿区医師会長と懇談

分野が違う病気を主治医1人ですべて診れるわけがないこと、2年前に決めた制度なのに、国の方針がなかなか決まらず、医者は特定検診、特定保健指導の対応で頭がいっぱい、不安をかかえていること、医療に月6千円の上限をもつることについて、「安かろう悪かろうの医療を押し付けるのは、個人のフリーアクセスを阻害すること」と批判されました。

他にも、救急時に医師がいなかったり、早産の場合なら、産まれる未熟児を育てる設備が埋まっていて受けられない現実、「病・診連携」だけでなく、病院間連携に医師会として努力して救急の体制をつくった問題など、話は多岐にわたりました。



日本共産党衆議院東京1区若者相談室長

富田なおき

事務所ニュース

6 2008.6.8

発行：富田なおき事務所

〒162-0065 新宿区住吉町11-25
TEL 03-3357-3392 FAX 03-3353-4912
E-mail:tomita-naoki@nifmail.jp

生存権裁判の勝利めざす 新宿決起集会開かれる

5月26日、「生存権裁判の勝利めざす新宿決起集会」が開かれ、60人が参加しました。

弁護団の坂本雅弥弁護士が、「東京生存権裁判のこれまで、そして勝訴へ」と題して記念講演。廃止された生活保護の老齢加算の復活を求めてたたく、東京原告団長の横井邦雄さん（新宿区在住）、

新宿区議の川村のりあきさん、新宿区労連の岡村稔さんから報告がありました。

横井さんは目がご不自由で、いつも杖

を手に生活されています。老齢加算がなくなり、布団もぼろぼろ、同級生が亡くなっても香典をもってお別れをすることできず、弔電しか送れないこと、ささやかな楽しみだった映画も見られないことなどを話されました。「ぜいたくは望んでいない。残り少ない人生、心穏やかに生活したいだけなんです」との訴えが耳から離れません。

決意表明する原告団長の横井邦雄さん

憲法25条「健康で文化的な最低限度の生活を営む権利」にちなんでトロンボーンを演奏しました



田なおきもささやかですが、勝利めざして力をつくします。

判決は6月26日、署名を裁判所に提出する締め切りは6月19日と決まりました。この裁判に勝つことは、自民党・公明党の政治が社会保障を削減し続けてきたことに「ノー」の判断となります。私、富

白金・南麻布地域で

「明日の港区をみんなで語ろう会」



5月30日、日本共産党白金支部と白金・南麻布後援会主催の「明日の港区をみんなで語ろう会」に参加し、青年の雇用問題を中心にお話しました。

元都議の窪田光さん、大学准教授の宮崎礼二さんなどから報告がありました。「貯金が1000億円を超える、全国トップクラスの財政力をもつ港区が、後期高齢者医療制度に『ノー』と言い、森ビルに年間30億円以上も補助金を出す区政から、保育園や特養ホームを増やす区民のための区政に変われば、全国に影響する。日本が9条を大切にする政治に変われば、世界に励ましになる」との話に元気百倍でした。

みなと健康まつり



港区議団のみなさんといっしょにあいさつ

5月25日、芝公園で「第20回みなと健康まつり」が開かれました。健康体操、介護を考えるみなさんのお話や、ロックソラン、ジャズ演奏、沖縄民謡などなど。芝消防署もテントを出して防災クイズも。若者の参加も多かったです！雨のなか準備されたみなさん、本当にお疲れ様でした！

TOKYO若者メーデー



5月11日、「TOKYO若者メーデー」に参加しました。270人の若者が参加し、すごい熱気。1日16時間労働の未払い残業代の一部を払わせた美容室で働く柳勝也さん、「SHOP99」の元店長で残業代支払いを求めて提訴した清水文美さんなどが発言。仲間と励まし合い、学んでいくことが現実を変えていく確かな力になっていくことに、勇気もらいました！

富田なおきの生いたち

山形の風物詩といえば、なんといってもいも煮会です。親睦を深める場として、友人・家族・職場・学校・地域など、社会生活のあらゆる場でおこなわれます。山形盆地を囲む山々が色づくころ、市内を流れる馬見ヶ崎川の河原や、広場が



山形市の共産党後援会のいも煮会

いも煮会——授業は1時間で打ち切り、全校の行事に

会場になります。中学校の行事にも組み込まれ、前日は部活動は中止になり、さと芋や牛肉、こんにゃく、長ネギなどの食材、炭などの買い物から準備が始まり、商店が無料で大なべを貸してくれます。当日、授業は1時間で打

ち切られ、クラス別やサークル別にいも煮会が行われます。私の入っていた吹奏楽部でもやりました。今では観光の目玉としてマスコミでも取り上げられますが、地域の生活に深く根ざした伝統ある行事です。